今後もいろいろな見せ方で新しい宮島を展開したい

一般社団法人宮島観光協会
会長　**中村 靖富満**（なかむら やすふみ）さん

新たな魅力発信を

世界中の有名な観光地や文化財と同じように、世界遺産に登録という方法で宮島の素晴らしさをきちんと評価してもらったことで、より多くの人が宮島を訪れるようになりました。外国人観光客も年々増加し、その旅行傾向に影響を受けているかのように日本人観光客の滞在時間も延び、内容も変わってきています。これまでは3時間ほどで神社に参ったり、買い物をしたりするのがメーンでしたが、近年は登山や海でのスポーツ、座禅など体験型の観光も多様化する観光客のニーズに応えている事業者さんの支えとなることが、観光協会の役割だと思っています。

年間の来島者数は現在、40万人を超え、市内の活性化に一役買っています。しかし、現状で満足していては減少に転じることも考えられます。紅葉や気候の良いシーズンはにぎわいますが、寒い時期や梅雨には客足が少なくなってしまいます。これまでオフシーズンとされてきたこのような時期にも魅力がたくさんあります。良いものは残しつつ、常に新しいものを提供していくことで、来た人が新たな発見をし、長く愛されるものになっていきます。私も含め、宮島の良さを改めて確認し、切り口を変えて伝えていくことが今後の課題だと感じています。

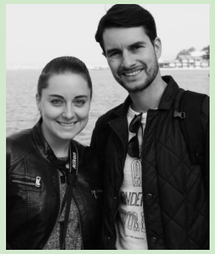
また、さまざまな国からの観光客を迎えることは、先のことを予測して積極的に情報を取りながら前向きに考える必要も出てきます。例えば、宗教上の理由から、食べるものに気を付けなければいけない人もいます。そのような人も異文化を感じるために宮島を訪れているのだとは思いますが、食はその観光地の魅力に直結します。少しの配慮でストレス無く、より楽しんでもらえるのであれば、できる限り対応したい。それが日本人の誇る「おもてなし」の心ではないかと思います。

宮島とのつながり

古くから宮島は旧佐伯郡との関わりも深いものがありました。宮島を観光地としてだけ捉えるのではなく、旧佐伯郡のまちとして歴史的、文化的なつながりがあったことを、市内全域の皆さんにも知ってほしい。豊かな自然、脈々と受け継がれてきた歴史。ちょっとした休日に、ぜひ来島してみてください。きっと面白い発見があると思います。

来島者の声

The Voice Of Miyajima Lovers

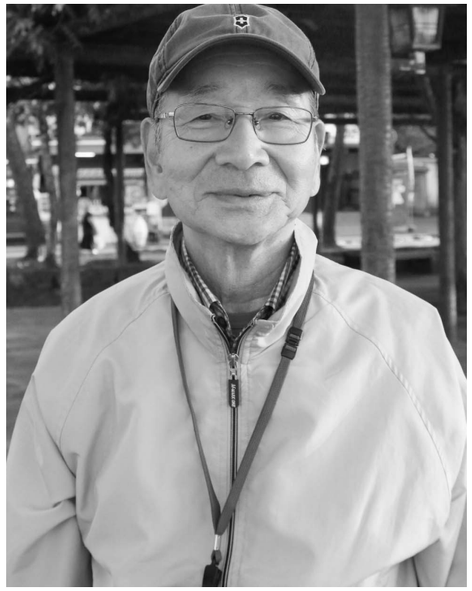


Carina Cestaro さん
Sascha Henzel さん

ドイツから初めて来たという2人。「海の上に神社を建てるという発想はとてもユニーク。そして大変美しく、特別なところだと思います。神社と鳥居を見たところなので、これから弥山に登って島全体を眺めるのが楽しみです」と笑顔でした。

堀江（ほりえ） 妙子（たえこ） さん

平清盛のドラマを見て興味を持ったという堀江さん。愛知県からご夫婦で来られたそう。「夜のライトアップも素敵でした。神主さんがお浄めをする場面も見ることができ、歴史的な風習がきちんと残っているところが素晴らしいと思います」と話してくれました。



宮島の真の姿を多くの人に見てもらいたい

宮島登録ガイド連絡会
会長　**藤井（ふじい） 伸一（しんいち）** さん

会員たちのプロ意識

現在、宮島登録ガイド連絡会では、20人余りの人が活躍しています。ガイドの試験を受け、2時間ほど有料で案内して回り、プロとして宮島の魅力を発信しています。ガイドの依頼を受けるのは平均すると月に4～5回ですが、観光客が多いシーズンになると、ほとんど毎日依頼があります。

私がガイドとして特に大切にしているのは、相手の望むガイドの形を最初の出会いで見極めること。雑談を通して表情を見ながら、どのような情報が心をくすぐるのかアンテナを張って確認しています。

例えば、桟橋付近にある清盛像を紹介する場合でも、正確な年号を言うこともあれば、時代だけ言うこともあります。私が知っている情報をすべて伝えようとするのではなく、たくさんの引き出しは用意しつつ、相手に響く情報を提供する。初めての人、何度も訪れている人、子どもたちなど利用者も千差万別です。ガイドも色とりどりで、弥山や昆虫など特別詳しい領域を持っている人、幅広く何でも知っている人、相手の出身地を下調べしてその地と比べた話を多く盛り込むような人もいます。会員たちのプロ意識は心から自慢できます。

ガイドの仕方、対応の良さでリピーターになってもらえるかどうかが決まってくることをいつも考えています。笑顔が基本。宮島に来てよかった、また来たいねといってもらえたらうれしいです。

語り尽くせない島の魅力

ガイドになるため、ガイドになってからも島の歴史などを勉強をしていますが、知れば知るほど魅了されていきます。古いものが多く残されていて「昔のまま変わらない島」でありながら、潮の満ち引きによって「変化が生まれる島」でもあります。

海外からの観光客の滞在の様子を見ていると、神社や仏閣などを見学するのはもちろんのこと、それらの建物の見え方が潮の満ち引きによってどのように変わるかということも見に来ているようです。世界遺産はいろいろなところにありますが、そのほとんどが陸地にあり、変化の無いもの。自然の力によって「変化がある世界遺産」を目ざとく見つけて、来島してくれているのかなと思います。1日いてこそ分かる島の良さをさらに広めていきたいです。

歩いて感じてほしい

世界遺産に登録されて20年となりますが、厳島神社ができた1400年前から、もっと言うと島ができたところから、世界に誇る遺産であると思っています。自然や神社だけでなく、付随した行事や祭りなど無形のものも継がれていて、数々の世界遺産がありますが、この島に敵うものはないとガイドで回るたびに感じます。

まずは市民の皆さんに真の宮島を見てほしい。どのような思いで神社が建てられ、行事や自然が守られてきたのか。船に揺られる10分間は現代から昔へのタイムスリップです。日常から離れて、潮の満ち引きを見たり、島内をゆっくり歩いてみたりしてもらえたらと願っています。

ガイドする藤井さん。その表情は常ににこやか。